

子どもの森づくり通信

J P 子どもの森づくり運動
隔月発行会報
(2025年9月号)

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081

<https://www.kodomono-mori.net> mail:info@kodomono-mori.net

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



酷暑の日々が続きますが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。
熱中症に十分に注意して、この夏を乗り越えていただければと思います。

子森通信2025年9月号をお届けします。

大切なお知らせや、新しい取り組みのレポートも掲載しました。

是非、ご覧いただければ幸いです。

写真は、岐阜県の「油坂さくらパーク」に植えられたどんぐりの苗木です。

(目次)

1. 「園庭緑化運動」2025年オンライン10月講座のご案内
2. 「こどもの森づくりフォーラムin奈良」のご案内
3. リレーエッセイ（2025年9月号）－共にふりかえる「東北復興グリーンウェイブ」（その3）－

日本郵政グループからのお知らせ

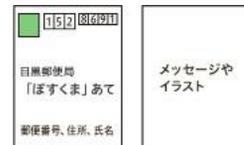
日本郵政グループは「J P 子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取り組みを行っています。

【特別協賛】

 日本郵政グループ



お手紙をくれたみんなに
ぼすくまからお返事が届くよ!



ぼすくまの動画はこちら



YouTube
ぼすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUJZ9A

ぼすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぼすくまと仲間たちは郵便局のキャラクターです。ぼすくまは、くまのぬいぐるみの郵便屋さんです。仲間たちもみんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局「ぼすくま」あて

※あて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。

1. 「園庭緑化運動」2025年オンライン10月講座のご案内

「園庭運動」2025年度オンライン講座の最終講座のご案内です。講師は、かねてよりご出講を希望しておりましたお茶の水女子大学の宮里 暁美先生です。最終講座に相応しい講座です。是非、ご参加ください。

・テーマ：気づく・感じる・喜ぶ生活

～身近な自然と出会う日々の中で～

・開催日：2025年10月23日(木)14：00～15：30

・講師：お茶の水女子大学「お茶大アカデミック・プロダクション
寄附講座」教授 宮里 暁美（みやさと あけみ）先生

・コーディネーター

田園調布学園大学大学院 准教授 仙田 考先生

・参加費：無料

・募集人数：先着30名

・募集締切：2025年10月17日(金)

・参加申込み：右のQRコード、及びホームページからお申込みください。



・宮里 暁美先生プロフィール

お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所教授、文京区立お茶の水女子大学こども園園長を経て現職。子どもの姿に「耳をすますこと、目をこらすこと」を心がけ、30年以上、保育の現場や保育者養成に従事。身近な自然との出会いと探究に関心をもっている。主な著書に『耳をすまして目をこらす～いとりどりの子どものきもち～』（赤ちゃんとママ社）

2. 「こどもの森づくりフォーラムin奈良」のご案内

今年も「全国植樹祭」関連事業の「こどもの森づくりフォーラム」（以下、フォーラム）が開催されます。フォーラムは、2023年度の埼玉県、2024年度の愛媛県に続き、**2025年度は11月15日(土)、16日(日)に奈良県での開催となります。**

フォーラムは、保育・幼児教育関係者と森林・林業関係者、さらに地域住民が連携して、子どもたちの「生きる力」を育む幼児期の森林環境体験活動の機運を高めることを目的に開催されます。

基調講演は、**東京大学名誉教授、学習院大学文学部教授の秋田 喜代美（あきた きよみ）先生と、自然保育学会会長、上智大学大学院教授の山口 美和（やまぐち みわ）先生**にお引受けいただきました。子森ネットは、フォーラムと「JP子どもの森づくり運動」の目指すミッションが同じものと考え、第1回目から実行委員会事務局を務めております。

フォーラムには、全国の保育・幼児教育者と森林・林業関係者が集います。この機会に、森と子どもたちの未来づくりを一緒に考えてみませんか。皆様のご参加をお待ちしております。詳細は、下記ホームページをご参照ください。

⇒ <https://kodomoriforum.net/nara/>

参加申し込みは、ホームページ、あるいは右のQRコードからお申し込みいただけます。



秋田喜代美先生



山口美和先生



【申込みフォーム】

3. 参加園活動レポート：「つくし幼稚園」⇒「浄心こどもの城」リレー植樹活動レポート

どんぐりの苗木の植樹地探しは、JP子どもの森づくり運動参加園共通の悩みです。今回の事例は、「**広葉樹の種苗の移動ガイドライン**」（*注）内で、参加園相互が活動を補完し合う新しい試みです。子森ネットでは、新潟県と岐阜県の二つの園の保育者と子どもたちが、どんぐりの絆でつながる有意義な試みと考え、この活動の仕組みを他の地域にも広げていきたいと思ひます。*注：JP子どもの森づくり運動では、環境省のガイドラインに則り、生物多様性に配慮したどんぐりの移動に関する独自のガイドラインマップを作成し、ホームページに掲載しています。

●新潟県「つくし幼稚園」苗木を見送る活動

2025年5月30日(金)に、新潟県小千谷市の認定こども園「つくし幼稚園」（以下「つくし幼稚園」）の子どもたちが拾って育てたどんぐりの苗木、約20本を見送る活動が行われました。

今回のどんぐりの苗木は、6年前に、当時の園児たちが同市の「船岡山」で拾ってポットで育てた、主にコナラの苗木です。



記念撮影



子森ネットが苗木を預かりました。

「つくし幼稚園」では、苗木も大きく育ったので、小千谷市内での植樹先を探したのですが、どうしても見つからなかったため、子森ネットが苗木を預かり、岐阜県の「浄心こどもの城」の子どもたちが、同園の植樹地に植えることとなりました。

「つくし幼稚園」から「浄心こどもの城」に、どんぐりの苗木と共に、6年間に渡ってどんぐりの苗木をお世話した子どもたちと保育者の想いと、いろいろなエピソードが

記載されたメッセージボードが送られました。（右写真）

以下、大瀧園長先生からのメッセージです。

この活動に関心を持つことに地域と連携を持つことや理解を広めるむずかしさを感じました。

植樹先の連絡を頂いた時の喜びは、安心といのちのつながりに夢が広がりました。本当にありがとうございました。つくし幼稚園 園長



●岐阜県「浄心こどもの城」植樹会

2025年5月31日(土)に、「つくし幼稚園」から届けられたどんぐりの苗木が、岐阜県の認定こども園「浄心こどもの城」の保護者と子どもたちによって、同園の植樹地である「油阪さくらパーク」（岐阜県郡上市白鳥町）に植えられました。

二つの園の活動の詳細は、ホームページをご覧ください。



植樹会が終わって、記念撮影

4. リレーエッセイ（2025年9月号）ー共にふりかえる「東北復興グリーンウェイブ」（その3）ー

「東北復興グリーンウェイブ」の活動をふりかえるリレーエッセイの第3回は、福島県と千葉県の参加園にお願いしました。福島からのエッセイは、伊達市の「霊山三育認定こども園」からお願いしました。同園の活動は、南会津の「田島保育園」の子どもたちが拾って届けてくれたどんぐりを、同園の子どもたちが育て、除染で荒廃した園庭に植えるという福島モデルでの活動となりました。「東北復興グリーンウェイブ」の活動は来年で一区切りですが、それは支援活動の終了ではなく展開と考えております。「子どもの森づくり運動」では、これからも「東北の緑の復興支援活動」を継続してまいりたいと思います。

➤ 心の絆を育む大切な活動 福島県「霊山三育認定こども園」 園長 齋藤 厚子

遠くの園児たちから、山で拾ったどんぐりが、箱いっぱい届いたのが「東北復興グリーンウェイブ」活動の始まりでした。

今から14年前私たちは、今までに経験したことのない絶望感に陥っていました。2011年3月11日2時46分忘れることのできない東日本大震災と同時に福島第一原発の爆発。放射能に汚染された園庭は、草木一本残さず除染がされ、まるで砂漠のような園庭になってしまいました。



みんなで踊った「♪どんぐりえがお」

子どもたちは、外での遊びを余儀なくされ、マスク、手袋、帽子での登園になりました。保護者の方々は他の地域に避難すべきか迷い、悩み、落ち着かない状況の中でした。

そんな希望を失っていた中、子森ネットの代表理事（当時）清水英二様から一本の電話が入りました。そこで初めて「東北復興グリーンウェイブ」の活動の取り組みを知りました。届いたどんぐりの種を、保護者や子どもたち、そして先生と一緒に鉢に植え、芽が出るのを楽しみに待ちました。

2018年6月25日に大きく育ったどんぐりの「苗木記念植樹」が盛大に行われました。草木の無くなってしまった園庭に、今では、2mほど成長したどんぐりの木の葉っぱが風に揺れ、子どもたちの居場所になっています。毎月届く「子どもの森づくり通信」を楽しみに拝読しておりました。

清水様から、活動終了のお話を伺いとても残念です。私たちの地域にも「東北復興グリーンウェイブ」の植樹が広がりました。長い期間、私たちに励ましをいただき、自然環境の大切さを教えていただきました。清水様はじめ、事務局の皆様本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

➤ 「東北復興グリーンウェイブ」をふりかえって 千葉県「今井保育園」 主任保育士 大森 恵美

震災当初はテレビに映し出される様子を観て、啞然とすると同時に自然の怖さを実感しました。

そのような中で「今、何をすべきか」「何が出来るか」と動き出している人々や同業の保育士さんの様子を知り、自分たちに出来る事は・・・と模索している時、この「東北復興グリーンウェイブ」の活動に誘って頂きました。

どんぐりを育てながら東北を想い、「忘れない」「忘れてはいけない」と振り返るきっかけにもなり、子どもたちにも自然の怖さだけでなく、大切さを伝えていく事が出来ました。

どんぐりの絆でつながった子どもたちが、これからも"たった1つの大切な命"を輝かせ、どんぐり笑顔の歌詞にたくされている優しい気持ちがみんなに届きますようにと願っています。

この様な活動を企画し、声を掛けて下さった子森ネットの皆さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。また、どこかで・・・。



ぼすくまと一緒に記念撮影